

刑 法 (配点 60 点)**【問題】**

以下の事実関係に基づき、甲の罪責を論じなさい（ただし、特別法違反の点を除く）。

- 1 甲（23歳，女性，身長155センチメートル，体重48キログラム）は，令和元
年ころからホストクラブ A 店に通うようになり，そこで働くホストである V（25歳，男
性，身長175センチメートル，体重65キログラム）と知り合い，やがて好意をよせる
ようになった。V は，甲に対して顧客以上の好悪の感情を有していなかったが，引き続き
自身を指名し高額な酒を注文してもらうために，甲が A 店内にいる時はあたかも自身の
恋人であるかのように振る舞っていた。そのため，甲は V も甲に好意を抱いていると信
じて続けた。
- 2 令和2年5月10日，甲はA店を訪れVを指名したものの，他の女性客がVのために
高額な酒を注文し続けていたため，V は甲の席について接待をする時間をほとんどとるこ
とができなかった。そのことに激高した甲は，閉店後，V に対しホストを辞めるように詰
め寄ったが，V から素気なくあしらわれてしまった。このことが契機となり，甲は，V と
相思相愛にも関わらず，V がホストクラブで働き続けていることで一緒になれないのであ
れば，いっそVを殺害して自分も死んでしまおうと考えるに至った。
- 3 そして，翌日から，甲は，具体的にVを殺害する手段を考え始めるようになった。V
は体格もよく，運動神経も良いことから，しっかりと計画を立てないと殺害することは難
しいと感じた甲は，身のこなしが早いVの動きを止めるために，まず，甲の所有してい
る自動車をVに衝突させてVを転倒させてその動きを封じ，その上で，倒れているVの
心臓を包丁で刺したらどうか，との計画を立てた。そこで，甲はホームセンターで刃渡り
15センチメートルの包丁を購入した上，自身の自動車の運転席ポケットに入れた。また，
V がホストクラブ勤務を終えて，自宅アパートに帰宅する深夜の時間帯を狙って，自動車
でVを追尾して，自動車をVに衝突させてうまく転倒させられるよう，Vのアパート付
近のひとけのない道路を確認するとともに，うまくVを転倒させられるように，適当な
速度で走行する練習を路上で行う等した。
- 4 同月15日午前2時30分ころ，甲は，Vのアパート付近のひとけのない道路端に，乗
車している自動車を駐車させてVの帰宅を待ち伏せしていると，Vが酒に酔った様子で
歩いてくるのが確認された。そこで，甲は自身の自動車を発進させると，時速約20キロ
メートル程度の速度でVの右斜め後方から自動車の車両前部を衝突させた。しかし，甲
の思惑とは異なり，Vは転倒することはなく，自動車のボンネットに跳ね上げられ，後頭
部をフロントガラスに打ち付けた上，自動車が停止した後に路上に落下し，加療約10日

間の頭部切創等の傷害を負った。なお、このとき、甲には V に対する殺意はなく、自動車を V に衝突させたのは、あくまでも V を転倒させて動きを止めるための認識でしかなかった。

5 その様子を見た甲は、意外にも V がボンネットに跳ね上げられて、路上に落下し、立ち上がろうとするその顔を見て、元々、V に対して有していた愛情により自らの行為を後悔すると共に、V を殺すことはできない、と思い至ったことから、自動車を停止させた後、包丁を手に取りることなく降車した。そして、甲は、逃げる V を追い掛け、V に追いつくやいなや「ごめんなさい。」などと述べ、さらに「V がホストを辞めてくれないから、V を殺して私も死ぬつもりでした。」などと言って泣いて詫びた。

その後、間もなく V が警察に連絡をしたところ、同日午前 3 時頃、出頭した警察官によって甲は逮捕された。